

国立研究開発法人  
日本医療研究開発機構（AMED）委託事業

平成 28 年度  
ゲノム病理標準化センター  
第 7 回 病理標準化センター講習会 報告書

於 東京大学医学部附属病院

平成 28（2016）年 10 月

## 第7回 ゲノム病理標準化センター講習会報告書

「ゲノム研究等に資する質の高い病理組織検体の取扱いに関する高度専門知識を有する人材の育成」を目的とした「第7回ゲノム病理標準化センター講習会」を2016年9月18日（日）、19日（月）に東京大学医学部附属病院にて開催した。

過去6回の講習会は、第1回講習会は「ゲノム病理標準化センター講習会」を行っていくための「実証講習会」として、2015年3月28日（土）、29日（日）の2日間、第1日目に座学講習、第2日目は実習講習を行い、日本病理学会の委託事業である「組織取扱い規定」を作成するために実証研究に関わっている施設の医師や技師、ゲノム研究の第一線の先生方など、のべ86名の方が参加した。

第2回講習会は2015年8月7日（金）、8日（土）、9日（日）の3日間、JCOGの臨床研究グループの先生方を中心に、第1日目座学講習、2日目・3日目実習講習の構成で、3日間でのべ91名の医師および技師の方々にご参加いただいた。

第3回講習会は、2015年12月6日（日）、座学による講義講習を企画し、既に技術的なノウハウに関しては精通している臨床検査技師をはじめ、技術系の先生方、バンキングを担当あるいは計画されている施設、部門の責任者の医師等を中心に参加していただき、さらにゲノム医療の実践というアウトカムを意識して、製薬会社や試薬メーカーの方々にも参加を呼びかけ、78名の方々の参加があった。

第4回講習会では、日本病理学会へのAMEDよりの委託事業である「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程」をハンドアウトとともに参加者全員に無償配布し、2016年3月12日（土）、13日（日）の2日間、座学と実習による講習会を開催し、のべ74名の参加者があった。

第5回講習会は、はじめて東大を離れ、九州大学にて2016年6月18日（土）に開催され、62名の参加者があった。

第6回講習会は、「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程」の製本版が発刊されてから東京大学開催の初めての講習会で、2016年7月24日（日）に座学のみとして開催した。90名定員のところ、90名をこえる参加希望者があり、相当数の方々を事前にお断りしなくてはならなくなりましたが、実際には85名の参加者であった。

今回、第7回講習会は、2016年7月18日（日）、19日（月）の2日間、座学と実習でのべ63名が参加した。主催者側および日本病理学会を代表して 東京大学医学部人体病理学・病理診断学分野 教授 日本病理学会理事長 深山正久氏よりご挨拶があり、AMEDバイオバンク事業部 部長 加藤治氏より、AMEDの方針・国の方向性、AMEDの目指す Medical Artsに関する説明、Data sharingの重要性について説明がなされた。

講義では、「ゲノム医療実現に向けたオーダーメイド医療の実現化プログラムの取り組みと病理組織バンキングの構築」として、東京大学新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻 教授 松田浩一氏にご講演いただいた。これまで久保充明氏、村上善則氏の2名で行っていたところを、1名で行っていただいたが、アンケートでは非常に好評であった。

さらに「ヒト病理検体からのゲノム診断と研究」というテーマで、東京大学医学部人体病理学・病理診断学分野 准教授 牛久哲男氏より、「病理診断を妨げない検体採取法等」を主とした講演があり、次いで日本病理学会のAMED委託事業である実証研究に関して、「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程の解説」と題して、日本病理学会ゲノム病理組織取扱い規約策定の実証研究施設の1つである、神奈川県立がんセンター臨床研究所から、がん分子病態学部 部長 宮城洋平氏よりご講演いただいた。

いずれの講演もアンケートの評価は高いものであった。ただし、今回は「ゲノムに関連する略語の用語集などがほしい」との声が複数あり、次回の講習会までに対応を検討したい。

今回の講習会は国内の主な学会等は外したつもりであったが、種々の国際学会と重なってしまい、JCOG および製薬メーカーなどからの参加者が少なく反省すべきと考えた。それでも参加者は、北は北海道北斗病院から南は琉球大学までまさに全国からの参加であった。第7回までの参加者はのべ539名を超えた。なお今回の講習会参加者には、日本病理学会 病理専門医更新 領域別講習単位 2単位が、また日本臨床検査技師会の生涯教育単位が付与された。

講習会の終了にあたり、聴講生には修了証書が配布された。また聴講生1人1人には「ゲノム病理標準化センター講習会ホームページ」で講習内容が復習可能なコンテンツの閲覧とe-ラーニングが受講できるように専用のID、パスワードを配布し受講を促した。

講習会受講者全員にアンケートの提出をお願いしているが、アンケートの回収は51件、内容に関しても、いずれの講義も好評であった。

なおアンケートの内容は講義をしていただいた先生方にフィードバックし、今後の講義の参考にさせていただいている。